



務

土木學會誌 第十六卷第三號 昭和五年三月

○昭和五年二月二十四日役員會を開く、中川會長、八田、眞島の兩副會長、古市、中山の兩前會長、木津、久保田、眞田、谷口、橋本、平井、前川の各常議員、黒河内編輯委員長、丹治、牧野の兩主事出席、中川會長議長席に着き下記事項を決議せり。

△本年度視察旅行の件は次回役員會迄に具體案を作成すること。

△三月下旬開催の講演會は會員金子源一郎君の講演を依頼することとし期日及演題其の他は同君と打合せすること。

△世界動力會議日本國內委員長より申出に係る伯林世界動力會議第二回總會出席者推薦に關しては本會より選出方困難の旨回答すること。

△工學會理事長より移牒に係る資源局照會科學的研究に關する不備缺陷の事例調査の件に就ては關係書類を複製し各役員へ配布次回役員會に於て協議すること。

△關西支部報告に係る役員改選を承認すること。

其の他會務に關する事項

○同年二月十七日編輯委員會を開く中川會長、黒河内編輯委員長、岡田、鈴木、田中(寅)、田中(豊)、藤井、三浦、山口の各委員菊池囑託出席、會誌編輯上の協議を爲せり。

調 査 會 記 事

用語調査會

○昭和五年二月二十一日第十八回用語調査會幹事會を開く。中川幹事長、砂治、内村、岡田、櫻部、鮫島、田中(寅)、田中(豊)、富永、中桐、福田、柳生の各幹事及中川、白石の兩囑託出席、第一回委員意見に就き審議を爲せり。續いて、川口利雄君、倉田玄二君、瀧淵實烈君を鐵道之部の幹事に推薦し、分科會分擔表を改定せり。

○昭和五年三月十九日土木學會誌第十六卷第二號發行成規の手續を了し翌二十日一般會員に配布せり。

○下記諸氏は退會せられたり。

會員 沖 一誠君

准員 小川誠耳君、河端八郎君、正木吉太郎君、海野次男君、水田増善君、宇野甚七君、高橋佐一君、漆畑保治君、岡本増成君、吉岡吾一君

○昭和五年二月十六日以降同月末日迄に於て入會を承認し名簿に登録したる者下記十九名なり。(○印は轉格を示す)

會員 ○長澤達也君, ○古賀正巳君

				准 員							
末 野 矢 廣君	本 宮 武 二君	野 田 匪 六君									
唯 野 豪 一君	田 中 寛 二君	首 頭 一 雄君									
澁 谷 和 夫君	佐 原 秀 雄君	佐 藤 哲 平君									
菊 地 胞 太 郎君											

				學 生 員							
對 馬 久 敏君	高 橋 重 夫君	鈴 木 利 平君									
坂 元 久 太 郎君	小 林 計 己君	小 橋 龜 雄君									
韓 岡 鎮君											

○昭和五年二月十六日次降同年三月十五日迄に於て寄贈並に交換を受けたる雜誌其の他下記の通り。

寄贈の分

研究報告 Vol. IX. No. 3	1冊	八 幡 製 鐵 所
The Excavating Eng. No. 2	1冊	三 井 物 産 株 式 會 社
同窓會誌	1冊	仙 臺 高 等 工 業 學 校
電氣ヴキトル第 3 號	1冊	電 力 需 給 促 進 會
名古屋工業會々報第 88 號	1冊	名 古 屋 工 業 會
内外工業時報 3 月號	1冊	最 新 工 學 普 及 會
工業第 2, 3 月號	2冊	大 阪 工 業 會
東京工業會誌第 3 號	1冊	東 京 工 業 會
工學 3 月號	1冊	東 京 工 學 社
工業之大日本第 2 號	1冊	工 業 之 日 本 社
工事畫報第 3 號	1冊	工 事 畫 報 社
國立公園 2 月號	1冊	國 立 公 園 協 會
帝國學士院記事第 1 號	1冊	帝 國 學 士 院
鐵道技術第 4 卷第 3 號	1冊	鐵 道 技 術 社
電氣製鋼第 2, 3 號	2冊	電 氣 製 鋼 研 究 會
土木建築材料商報 3 月號	1冊	東 洋 建 材 商 報 社
日本工業學輯報第 7 卷	1冊	學 術 研 究 會 議

早稲田建築學報第 7 號	1 冊	早稲田大學理工學部
昭和三年度直轄工事年報	1 冊	內務省土木局
工學報告第 1 號	1 冊	東北帝國大學圖書
電氣試驗所研究及調査報告一覽	1 冊	逓信省電氣試驗所
土木建築資料通信第 194 號	1 冊	土木建築資料通信社
東京土木建築業組合報第 3 號	1 冊	東京土木建築業組合
日立評論第 2 號	1 冊	日立評論社
三菱電機第 3 號	1 冊	三菱電機神戸製作所
セメント界彙報第 228, 229, 230 號	3 冊	セメント界彙報發行所
ワット第 2 號	1 冊	ワット社
○交換の分		
衛生工業協會誌第 4 卷第 2 號	1 冊	衛生工業協會
帝國鐵道協會彙報第 31 卷第 2 號	1 冊	帝國鐵道協會
機械學會誌第 254 號	1 冊	機械學會
建築雜誌第 530 號	1 冊	建築學會
工業要録第 6 卷第 2 號	1 冊	工業資料調査會
工業化學雜誌第 3 冊及同歐文	1 冊	工業化學會
港灣第 3 號	1 冊	港灣協會
造船協會雜纂第 94 號, 第 95 號	2 冊	造船協會
鐵と鋼第 2 號	1 冊	日本鐵鋼協會
電氣學會雜誌第 469 號	1 冊	電氣學會
日本建築士第 6 卷第 2 號	1 冊	日本建築士會
日本鑛業會誌第 538 號	1 冊	日本鑛業會
工政第 123 號	1 冊	工政會
業務研究資料第 2 號	1 冊	鐵道省大臣官房研究所

准員熊野政雄君は二月一日、同原田勝三郎君は二月十日、學生員岡元忠君は同日、同土屋春義君は二月十四日逝去せられたり本會は謹んで哀悼の意を表す。

雜誌閱覽に就ての會告

下記の雜誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は下記時間内御随意に御閱覽相成度候。

閱 覽 時 間

日曜日及祭日休、土曜日自午後一時至同四時、其他 自午後四時至同八時。

但し役員會、委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候。

備 付 雜 誌

Engineering	工	政
Engineering News-Record	港	博
Le Génie Civil	國 際 建 築 時 論	
Railway Gazette	造 船 協 會 々 報	
衛生工業協會誌	帝 國 鐵 道 協 會 々 報	
機 械 學 會 誌	鐵 道 學 會 誌	
業務研究資料(鐵道大臣官房研究所)	電 氣 學 會 誌	
建 設	電 氣 製 鋼 誌	
建 築 雜 誌	土 木 建 築 雜 誌	
工 學 部 紀 要 (東大, 京大, 九大)。	日 立 評 論	
工 學 報 告 (東北帝大)	名 古 屋 工 業 會 々 報	
工 業 化 學 雜 誌	滿 洲 技 術 協 會 誌	
工 事 畫 報	其 他 寄 贈 雜 誌	

廣 告 料 (東京市京橋區築地上柳原町八番地 東京第一通信社取扱)
電話京橋 872 番、振替東京 3069 番

普通廣告 一回一頁 40 圓 一回半頁 25 圓

指定廣告	裏表紙三面對向 及廣告初頁	一回一頁 60 圓
	裏表紙三面	一回一頁 150 圓
	色アート	一回一頁 75 圓

- 指定廣告は凡て一箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の一割引とす
- 同一廣告の連續掲載申込に對しては半箇年分五割引、一箇年分一割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

正 誤 表
討 議

SPANNUNG UND FORMÄNDERUNG DES ORTHOGONALEN,
HOMOGENEN STAB-ECKES OHNE AUSRUNDUNG

(第十六卷第一號所載)

頁	行	誤	正
83	1	この方程式は平衡の表式でないから	この方程式は點平衡の表式でないから

討 議

(第十六卷第二號所載)

關門隧道の調査及計畫に就て

頁	行	誤	正
84	6	第五節の潮流 (84呎/秒)	約五節の潮流 (8.4呎/秒)

寄稿に関する注意事項

- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第送附す。
- (2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 150 枚（本會誌 50 頁）程度とされたし、若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあるべし。
- (3) 假名は平假名とし、數字はなるべくアラビア文字を用ひられたし。
- (4) 歐字は特に明瞭に認むること。
n と v, u と w, r と s, a と α, r と γ
其の他頭字と小字とを判然たらしむる事。
- (5) 原稿には必ず冒頭に英文表題及内容梗概を添附されたし。
- (6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。

(イ) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とす。

(ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。

(ハ) 方眼紙は青野のものを用ひ（黄色、赤色の野は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置かれたし。

(ニ) 圖表中の文字、數字は特に大きく肉木に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。

(ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。

- (7) 寫眞は特に明瞭なるものを送られたし。
- (8) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし、尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。

算式其の他の記し方大體標準。

- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。 a/b と書き $\frac{a}{b}$ を避けること。 $(a+b)/(c+d)$ と書き $\frac{a+b}{c+d}$ を避けること。
- (2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。 $\frac{1}{3}x$ と書き $\frac{x}{3}$ を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$ と書き $\frac{a+b}{2}$ を避けること。 $\frac{a}{b+c/d}$ と書き $\frac{a}{b+c\frac{1}{d}}$ を避けること。
- (3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。
- (4) 名數は次の如く記し括弧の中の様を書くことを避くること。
83.4 尺（八丈三尺四寸）、7 吋（七吋）、35 錢（三十五錢）、13.56 圓（十三圓五十六錢）、1~4 時間（一乃至四時間）、88 326 噸（八萬八千三百二十六噸）、1929 年 1 月 1 日（千九百二十九年一月一日）。

新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配布致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合は一部に付下記金額振替口座東京一六八二八番に拂込み用紙通信欄に其旨記入請求せられたし

残 部 内 譯

第五卷一號二號	一部	金壹圓	圓
第六卷六號	同	金壹圓	圓
第七卷二號三號四號	同	金壹圓	圓
第八卷一號	同	金壹圓	圓
第九卷一號二號三號五號六號	同	金壹圓	圓
第十卷二號三號四號五號六號	同	金壹圓	圓
第十一卷二號	同	金壹圓	圓
第十二卷二號三號五號六號	同	金壹圓	圓
第十三卷二號三號六號	同	金壹圓	圓
第十四卷一號二號三號四號五號六號	同	金壹圓	圓
第十五卷一號二號三號四號五號六號	同	金壹圓	圓
同 七號八號九號十號十一號十二號	同	金壹圓	圓
第十六卷一號	同	金壹圓	圓
東京市内外交通に関する調査書	同	金壹圓	圓
土木學會誌索引	同	金壹圓	圓
震害調査報告書(一、二、三)	同	金壹圓	圓

本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の住所の不明なるときは會誌の配布を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費支拂には差支なき様御配慮相成たし

會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に(拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事)御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月 第一期分二月徴收	自五月至八月 第二期分六月徴收	自九月至十二月 第三期分十月徴收
會 員	金拾八圓	金六圓	金六圓	金六圓
准 員	金拾貳圓	金四圓	金四圓	金四圓
學 生 員	金七圓五拾錢	金貳圓五十錢	金貳圓五十錢	金貳圓五十錢

新に入會したるものは月割算として入會の翌月集金を發す

會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して放なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滯納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配布を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手續一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年毎月十五日(印刷又は原稿等の都合に依り遅延する事あり)に發行し漏なく配付すべきに付未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配布不可能のことあるべきに付御留意相成たし